

SSKO

No.19

東腎協

東京都腎臓病患者連絡協議会

事務局 東京都新[REDACTED]

〒161 . 電話 . [REDACTED]

郵便振替口座 . 東京 [REDACTED]

加入者名 . 東 腎 協

昭和五十一年二月二十五日第三種
SSKO通巻第二〇四号
昭和五十三年一月十六日発行

郵便物認可



美濃部 亮 吉



昭和五十三年の新春を迎えました。今年もまた、まことに重苦しい年明けであります。すでに三年にわたる日本経済の冬は、突如激発した円高現象によって、さらに厳しい追いつちをかけられています。そして、そういうひとときを度合いを増した景気の沈滞が、社会のあらゆる分野にみまがり、国民の間に言いようのない苛立ちや不安、動揺の輪を広げているのであります。

経済の状況が厳しくなればなる程、大型の建設工事に巨額の金が注ぎ込まれるでせう。その反面、福祉施策に対しては容赦のない刃(やいば)が向けられるのであります。こうした状況に最も深い傷を受けるのは、いつの時代にも社会的に弱い立場の人々であります。憲法施行三十年を経た今日、私たちの生存の保障が、いまだこういふあやふやな位置にあることに、暗然たる思いを抱くのは、一人私だけではないと思います。都財政の危機も、いまや加速度的に、いよいよ破局的な様相を深めております。全国の自治体を襲っている今日の財政危機が、国に厚く地方に薄い地方財政制度のゆがみに増因することは、すでに明らかであります。とするなら、今年の私たちの進路も、引き続き政府の分厚い壁に挑戦していく以外にはない。しかもこの危機の嵐の中で、福祉の灯を何としても

守り抜き、都民の信頼に応えていく。それが自治体東京の使命であると思います。暗い世相であればなおのこと、東京にだけは常に希望と信頼の明るい灯がともり、歴史の行く手に清新な光を投げかけている、そう言われる都政の一年でありたいと思います。

今年は私にとって最後の一年に当たります。知事としての私には終着駅があつても、都政の終着駅はありません。その意味で、私は自分の残る任期のためでなく、ゴールのない都政のため、知事交替を越えて継続する都政のために全力投球をする——それがいつわりのない私の覚悟であります。東腎協のみなさんの御支援を心からお願ひすると共に、辛い闘病生活のかたわら運動を続けられるみなさんが、一日も早く健康を回復されますようお願いいたします。

新年明けまして

おめでとうございませう

自らの命は
自ら守ろう

東腎協会長

宝生 和男



明けましておめでとうございます。
会員の皆様には最良の春をお迎えのこ
とと存じます。
不況に暮れ、不況に明け九昭和五十三
年は、私達にとつともっともきびしい年
になりそうです。

福祉後退のきびしさは各方面に及び、
私たちの身辺をおびやかし続けておりま
す。

たとえば、せっかく支給された無料乗
車券が最近交通局の路線バスの赤字を理
由に次々と廃止され、または短縮された
のでその効力は半減されてしまいました。
このように、いとも簡単に切捨てられ
ていきます。

これが、もし医療費などの問題であつ
たら皆さん、いったいどうするのですし
うか。

最近、会員の中には東腎協不用論を唱
える方が多いと聞きます。全てが権利と
して認められていると錯覚しているよう
です。

公費負担ではなく無料化されているだ
けです。いつ都合によって切捨てられる

か何の保証もありません。

これから二十年、三十年生き続けなけ
ればならない会の若い人達が、なぜもつ
とこれらの問題と真剣に取組まないの
でしょうか。

もし本当に、この運動が必要ないもの
であれば、私も早く家庭に帰りたいもの
と思います。

今年はこのへんの意志統一をして自か
らの命は自から守る信念をもつて、お互
いにかんばっていきたいと思います。



10月8日

腎臓病医療相談会開かれる 患者34名、隣接県からも参加

昨年十月八日(土)、中野サンブラザで「腎臓病の医療相談会」が開かれた。これは、東灘連が都の委託事業として都民を対象に昭和四十八年度から実施している「無料巡回検診(医療相談)」のひとつとして実施されたものです。当日は、受診者三十四名(男17名、女17名)で、そのうち隣接県(神奈川県、埼玉、茨城)から八名もの受診者がありました。



医療相談会は、四人の医師——中川、吉山先生(東京医科歯科大学医学部第二内科)、稲田、井上先生(都立大久保病院)、東京都医療社会事業協会の内藤、西村、白田さん、国立公衆衛生院の山田、坂井さん、東京都衛生局の佐藤さんの協力を得て行なわれました。

この医療相談会の特徴は、患者が納得の得られる相談が受けられるので好評です。受付に来た時には、不安そりな顔つきで順番を待っていました。先生の話を聞いて、「本当にありがとうございました」とつぶやいて帰っていった人がたくさんいました。事務局には礼状も届いてますのでそれを紹介します。

闘病に、希望が
わいてきました

神奈川県足柄郡

岡部 美会

十月八日に中野のサンブラザで行われました相談の時には御親切な御指導を有難うございました。

神腎協より十月十六日に入会の便りが届きました。十月の検査の結果は蛋白は(一)でした。多少足にあつたむくみも無くなりました。

全腎協、東腎協、神腎協の会報を読み自分は余り重症ではないのに希望を無くしてしまふ意気地が無いな、これではいけないと考えるようになりました。

私の住んでいる所は西丹沢で自然休養村に指定されていますので、いも掘りやハイキングの人達が遊びに来てにぎやかな秋です。

今後よろしく御指導頂きますように
お願い致します。

やつと自分の病気に 納得がいききました

風間 尚子

晩秋とは思えぬ程の暖かさの中にも冬は一步一歩近づいて来ております。その後いかがでしょうか。

過日は、腎臓病の医療相談会、に参加させていただきありがとうございます。あの折、稲田先生にいろいろ私のことを相談しました処、是非うちの泌尿器科にいらっしゃいと言われまして、早速来院しいろいろ検査をしていただきまし

た。左右両腎の結石や逆流現象のことなどは今までの検査通りであったのですが、それも今早速にどうこうという程のもではなく、また心配しておりました腎機能の方もさほど落ちていないと言われ、ひとまずホッと致しました。

はつきりと明確な表現で説明していただきましたので、この先生なら信頼出来

ると思いましたが、もうあれこれ迷って
あちこちの病院を歩き回ることもなく、
これからはこの先生に診てを任せればい
いのだと思つことも出来ました。

医療相談会、に行つて良かったと心
から喜んでおります。

一番驚きました点は、血清検査や血液
生化学検査の結果を記入した用紙が患者
の持つカルテに貼付されていて、細かい
数字がはつきり私達にも分るといふこと
でした。今まで幾多の病院を回りました
が、こんな事はありませんでしたし、病
院によつては私達が聞くことに対しては
つきり眼な顔をされた病院もあり、検査
はされても結果の分らぬまま、ただ薬だ
けを飲んでる状態もありました。

やはり高血圧がありますので油断は出
来ませんが、現在の状態を的確に把握で
きたことは、大きな安心です。

稲田先生を指示していただき本当にあ
りがとうございました。

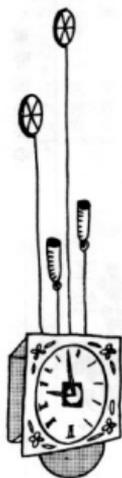
昨日、ニレ友の会の総会があり、そ
の時宝生会長さんより平沢さんのお話
がありました。体の具合も今が一番大切な
時なのに、毎日事務所に出て会の為、東
奔西走していらつしゃるとのこと。私共
会員のためにそんなに下さつていろ
のかと胸の痛くなる思いで聞きました。

そうして一身を投げうつて頑張つて下
さる役員さん方の努力に報いる術を私は
知りませんが、せめて自分の体を大切に
してこれ以上悪化せぬよう自愛したいと
思つております。

今、三歳の子供がせめてもう少し大き
くなれば、会のため何かのお手伝いをさ
せていただきたいと思つのみです。

これからのいよいよ厳しい冬が参ります。
大切なお体ですので、どうぞ御自愛なさ
いまして、あまり無理を重ねられないよ
うにして下さいませ。

（この手紙は平沢副会長宛に届いたもの
です）



宝生 和男さん

東腎協会長である宝生さんは、全腎協副会長、ニーレ友の会会長でもあるので多くの方がご存じだと思います。東腎協事務所でもたまに時間がとれたので病歴などをうかがってみました。

発病の頃

――発病したのは……

昭和四十三年八月に発病。整形外科子供を連れて遊びに行くので準備していたら腰のあたりが痛くて、山で発病しても困ると思って近所の医者に行った。そこで医者はとにかく入院しろと言った。何が原因かわからないが、顔色をみて大変な病気だ、と言っているので指定された病院へ。自分で荷物を持って、元気なのにつきつねにつままれたような気持ちで入院しました。

板橋区のある病院でした。そうしたら、医者の方が当たったね。その晩から腹痛に襲われ、七転八倒して、ベッドから落ちてでもわからなかった。食事も水もと

らなくなってしまう。それでも原因がわからなくて、四日間……

とうとう危篤状態になって個室へ。妻が危機感におそわれ、医者に問いつめた。わからなければ、他の医者を連れて来い――そして日大の外科から来て、腸閉塞だ、すぐ手術しなければ生命が危ない、と言われ、その場で日大へ緊急入院、すぐ手術した。手術した時に原因追求がおこなわれた結果「結節性動脈周囲炎により腎炎を併発、そして腸閉塞になった」ということがわかった。

二年余の入院生活

しかし、原因はわかったが治療法はないということになった。手術を終った段階で自宅へ帰るか、いま来た病院へ帰る

かどうかにかんじてくれといわれたが、妻が奔走して内科へ移った。

そこでイムランという新しい薬で効果も副作用もわからないが飲んでみようかというので飲み始めた。

ところが、それが劇的によくきいたんだねえ。まるで一皮はぐよりに。

――入院していたのはどのくらい。二年程入院。退院は確か四十五年の六月頃だったかな。

その間、二人の子供は妻の実家（小石川）へあずけた。上が小学三年、下が一年だった。

退院したら風邪をひき翌日又病院へ。最初の入院の時は、慢性腎炎でPSPも70%（二時間値）で、絶対大丈夫だといわれたのに、二度目の入院のときは40%以下がっていました。

入院中にニーレ友の会の結成もあり、これが患者会運動のはじめだね。

休職そして：

——この間の会社の方はどうなっていましたか。

休職だね。三年間。

「ふいよ半日勤務になると会社は仕事をさせないし（与えない）。そうしていろいろうちにイヤ気がさしてきて四十八年に退職。休み、休み二年間だったね。

休職の期間は六割支給でした。

——透析に入ったのは。

昭和五十年三月。その前は、つるべ落としみたいなどんどん機能が落ちていったね。

（機能が落ちてくると）自分でもわかる。血圧は上ってくるし、病院ではデータを教えてくれたし透析は間近いと意識した。

食事療法で透析を一日でも長らえようと思つたが、風邪をひいたら一発でだめになってしまった。

ニーレ友の会のこと

——ニーレ友の会はなぜできたのでしょうか。

当時は、腎不全という尿毒症で百分

アウトになった頃、人工透析が試験的に始まっていた。ところが二十一歳になる青年が突然人工腎臓にからななければならなくなってしまった。月五十万もの費用が払えるかどうかという両親に打診があつたが、二十一歳の青年が一生払える金の工面ができるはずがなかつた。そんなことをしているうちに、その青年はなくなつてしまつたが。

つまりそこに病院が、医者が、機械がありながら彼は金がないためにさみしく死んでいったわけで：。

これがニーレ友の会を設立させた動機です。当時（腎臓で）入院していたのは百人前後で、結成にはせ参じたのは二十四名でした。

現在の生活、趣味

——現在の生活は。

月、水、金曜は一時から七時（午後）まで透析。火、木曜は事務所（東腎協）で、土、日曜は会議（全腎協、東腎協、ニーレ友の会）で今年の三月まであいてる時はありません。

——趣味などありませんか。

謡曲、植木。謡曲は家で個人的にやるのでだれにも（家の人を除いて）聞かせたことはない。植木も忙しくて朝、水をやるぐらいですね。

大正十五年八月二十五日生まれて五十一歳。とにかく忙しくて大変なことと思ひますが今後もお一層の活躍を願つてやみません。

（聞き手・加藤）



全腎協第四回学習交流会

東腎協から九名参加

全腎協第四回学習会が十一月二十六日から二十七日にかけて、代々木オリンピック青少年センターで開催され延べ三十八名が参加。東腎協からは、加藤、高橋、石川、武富、有泉、三ツ木、小倉、池井、堀之内の九名が参加しました。第一日(26日)の主な日程は、他の難病の方の体験をきく主旨で、「私の療養体験——難病と闘い続けて」(講師・河野鑿全国パーキンソン病友の会事務局長)、「ハンセン氏病患者のたれかい——差別と偏見に抗して」(講師・鈴木禎一全国ハンセン氏病患者協議会事務局長)という内容でした。第二日(27日)は、「権利としての医療保障——その歴史と現状」(講師・長宏日本福祉大学講師)が話されました。参加者の一人である有泉さんにお願ひして感想文を書いたいただきました。

たいへん
勉強になりました

個人会員

有泉 栄子

私は15才の時に病気を発見し、それからの長い努力が実つて、やつと今は普通の人と変わりのないくらいいの生活をかくれるようになりました。しかし、今でもあの時の気持ちを忘れることができませ

ん。私は病気が悪化し、入院を命じられたとき、大切な期末テストが迫っていましたので入院を渋りました。その時お医者さんが私に言いました。「死にたくなかつたら今すぐ入院しなさい。」との瞬間から、私の頭の中には死という意識が住みついてしまいました。この死の意識があるからこそ、私は「生きたい」と叫ぶのです。とにかく生きたい。そのため、私はたくさんの青春らしいも

のを犠牲にしてきました。そんな私ですから永遠ということばに悲願とでもいうほどのあこがれを持っていきます。そしてこんなこと考えるようになりました。私は、永遠の命を得たい、それなのに人類すべての人は生まれた時に死ぬという運命を一方向的に宣言される。それなら、ただ、ただ体のみの命を長らえるために心をすりへらすのは愚かなことではないかと。人間には体もあるが心もあるのです。私はこの魂に永遠の命を味はわせてあげたいと願うようになりました。しかし、どうしたら永遠の命を得られるのでしょうか。私は途方にくれてしまいました。真理をみつけないと小さくつぶやきながら。

その真理を今回、学習会に出席し、みつけたと思いました。パーキンソン氏病の河野氏は、「通勤そのものが命がけ、家に帰ると、今日も生きたという実感があふ。」と語っておられました。私自身、疲れたとき試験紙で、尿たん白の検査をしてみます。結果が出るまでの約10秒間、私は息を殺して試験紙をみつめています。そしてその間は、私に比べて気の速くなるほどの長い時間であり、

また、私の運命を愛する一瞬でもあるような気がします。10秒がたつて、普段と変わりなし、とわかつたときの安堵感、その安堵感につつまれて、私は長い息を吐くことができるのです。その時、私は、まだ生きることを許されているという歓喜につつまれます。そして何かの使命が私には与えられている。それを果敢たさなくてはならないという決意をするのです。

そんなこと健康な友人に話したことがあります。その時友は言いました。「しあわせね。」と。確かに私が病気だからこそ味わえるしあわせなのだと思います。けれども、そのしあわせは哀しいしあわせ。そんな気がしていました。ですから、私は河野氏のお話に感銘を受けました。ああ、ここに一瞬一瞬を命がけて生きて

いる人がいたというおどろき、この方につけて永遠とは、一瞬のことだ。そんな気がいたしました。一瞬とは永遠のためにあるということが、この感激を通してわかつたのです。そこで私は、永遠とは遠くにあるものでなく、私自身が一瞬一瞬を大切にし、その中でつくっていくものだと思うようになりました。

それにもた、ハンセン氏病のお話をし下さつた、鈴木氏には、自分自身の内面を深くみつめることを教えていた。一方では社会へ目を向け、社会へ働きかけていくという不屈の精神を学びました。

そしてまた、権利としての医療保障のお話をし下さつた長氏からは、権利としての福祉ということを叫ぶための理論的裏づけを学びました。そしてまた、日本国憲法にある、健康的で文化的な最低限度の生活とは、現代の日本に則して具体的に何が、そしていつたれどこまでを最低限といい、どこまで要求できるのかという新たな疑問がわきあがってきました。それとともに、私の中に確かなものが芽ばえてきたのを感じました。

第10回関東ブロック会議

神奈腎協の主催で開催

昨年の十月二十三日第9回関東ブロック会議が、三田の障害者福祉会館で開かれました。

この会議には、東京（宝生、平沢、泉山、加藤、川崎）、神奈川、千葉、埼玉、栃木、群馬、茨城の七都県の代表十九名、全腎協から上田会長、小林事務局長が参加し活発な討論がなされました。

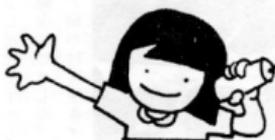
まず、自己紹介も兼ねて各都県の活動報告をしてから、この日のメインテーマである腎バンク制度の取組みについて討議がされました。

全腎協の小林事務局長から、今までの経過と問題点が出され、それを受けて各都県の取組み状況が話し合われました。その結果、三点の確認事項と次回の開催場所は群馬で泊まり込み（交通費は各都県持ち、宿泊費はブロック会議持ち——2名まで）、九月下旬、十月月上旬に予定することなどを確認して散会しました。



講師の話に熱心にメモをとる有泉さん

仲間のため



会報を楽ししく
読んでいます

こぶし会

通本 昭子

私が楽しみにしている、「全腎協のボストコーナー」や「東腎協の仲間のたより」では、文才な皆様そしてなかでも、斉藤唯志さんの「透析患者と一杯の水」は家中で楽しく読ませていただきました。まったく私と同じ気持ちでいらつしやる斉藤さん、本当に私も毎日毎日、お水が飲みたくて、又飲んでしまうから、こわい先生やテクニシヤンの顔が目につくときあとの後悔なんとやら、体重計の針とニラメッコ、それでも、公園の水道でちびり、駅の水道でちびり、ままよ、百円を投じ、ボックスから飛び出す冷たいサイダーで、がらがら(うがい)ちびり、まったくどうしようもない私です。

神さま、おれが飲みたくなくなる薬はないでしょうか……。

又、夜の夢ときたら、甘いムードな夢など見たこともなく、ラーメンを食べている夢ばかりです。でも、新聞の切りぬ

きから(昭和四十七年頃)足りぬ人工腎臓を読んで身のひきしまる思いです。

私は、昭和四十八年四月より、人工透析になりましたが、この五年間、悲しい思いが沢山あります。また、これからもつらいことなど山の様にあると思えますが、皆様のお力をお借りして頑張つてまいりたいと思つております。

子供の病気が
とても心配です

一患者の母

前略

はじめにお便りします。

この様なことでお便りすることは、今までなかったものですからどう書きはじめてよいかわかりません。

長女志野(845・5・21生)が紫斑病性腎炎にかかり、現在入院加療中なのですが、仲々困難な病気とのこと、同じ様な病気で悩んでいらつしやる方々と、連絡をとり合い、お互いに励まし合うことができたらと思ってお便りすることにいた

しました。

今年の二月に発病（紫斑が下肢に出、そのため腎炎を併発）入院、四月末に退院、五月七月まで通学（今年小学校に入学）、七月二十一日に再度入院、九月二十二日退院、九月二十六日と十一月三日まで通学、十一月四日より三度目の入院。現在に至るも入院中。

問題は、紫斑病の原因そのものが不明、さらに紫斑病から腎炎がひきおこされる経過（原因？）がわからない、というやつかいな病気であること。そのおかげで治療法も確立せず研究段階であり、試行錯誤の中での治療であるとの話。

患者を持つ身（親）としては毎日が不安で、今日の蛋白は、赤血球は、と気にしながら見舞に通っておりです。

現在は、私立の病院に入っておりますが、都立清瀬病院と連絡をとりつつ、治療にあたっては、小児専門の病院に入っていた方がよいのではないかなど思い迷つたりしております。どうか、同じような病気で悩んでおられる方々とお会いしたら、お話をうかがつたりして、これからどう対処してゆけ

ばよいのか教えていただきたく、よろしくお願いいたします。

気持ちがおちつかず、乱筆、乱文にて失礼いたします。

一九七七年十一月二十一日

透析五年目を迎えて

西新井腎友の会

星 幸治

透析、最初にこの言葉を耳にした時、私には何の事か全然判からなかった。透析をすることで腎臓が良くなると考えていたし、又そう信じていた。然し透析をしても、腎臓が治らないことを知ったのは、一週間もしないうちである。それは、同室の他の患者からいろいろ知らされ、そして長くとも三年位しか生きられないと言ふことである。その時には、本当にショックが大きく何處か病院のベッドで枕をぬらしたか判りません。

然し、どうし様もない事実、どうせ短い生命なら、一日一日を大切に、有意義に生きようと思ひ友の会の旅行や、行事には積極的に参加し、それを実行して来

ました。

私達の友の会は、春と秋の二回旅行をすることになつて居り、その度毎に親しみが深まり、又体に対しての自信がわいて来ます。

今一番思い出されるのは、尾瀬沼に旅行した時のことです。苦しい思いを忘れて見たあの尾瀬沼の日光キヌゲは一生忘れることが出来ないでしょう。今も皆さんとあの時の事を思い出しては話し合ひることがあります。

幸いにして私は、八ミリを少々やつて居りますので、その都度八ミリを写すことが出来とても貴重なものとして、保管して居ります。苦しみあり、楽しみあり、もう五年目を迎えることが出来ました。これも偏に友の会の協力、特に諸先生方や、看護婦さん、そしてスタッフの皆さんのお蔭であり、又よき家族の協力と理解があつたればこそと思ひます。今後、益々の医学の進歩に期待をもち、現在の医学に感謝をし、命のある限り一生懸命働き有意義な毎日を送りたいと思つて居ります。

透析を受けつつ 出産した私

三軒茶屋病院腎友会
市坪 クニ子

私は透析を始めてから約四年七カ月という月日が過ぎ去ってしまいました。初めて透析をした時は、毎日のように具合が悪く、死ぬ思いで透析を受けました。

急性腎炎と前の病院で診断されてから少しも良くなり、家族の皆さんにも心配のかげどおでした。私が働いていた時に、付き合っていた彼がいたので、彼の為にも家族の為にも頑張らなくてはと思い、生きるのに一生懸命でした。

彼と一緒にあったのは昨年の二月、彼も私も子供が好きでしたけど、私には子供も出きないし、生めないと思っておきながらおりました。でも、私の心の奥には、私さえ丈夫ならと思ひ、本当に彼にすまないと思っておりました。

そんな中で、私たちをなぐさめてくれたのは八匹の猫でした。我が子のように可愛がっており楽しい毎日でした。

そんな中で、私の身体のおかしいのに



気づき、院長先生に相談したところ、産婦人科に行くようにいわれ、行つてとろ七カ月といわれ、びつくりしました。

嬉しいやら不安やら、とても変な気持ちになり、彼にも相談したところ「やるだけやってみなさい」といわれました。私も自分の命をかけてやるだけやってみようと決心しました。

院長先生とも相談し、週四回の透析を受けて食事制限なしで食べ、少しでも子供を大きくするので一生懸命でした。

五月の中旬になってから出血があったので、すぐに東京船員保険病院に入院しましたが、毎日毎日、子供が無事に産れる事を願ひ、六月の十日に帝王切開と決まり、その日になってとても不安でしたが、後は先生にまかせるしかないと思ひ、

手術室に入りました。産まれた瞬間、子供の泣き声が聞こえなく、とてもがっかりしましたが、十五分位して赤ちゃんの泣き声が聞こえてきたので、無事だったんだなあと思ひ、その瞬間涙がとまりませんでした。すぐに国立小児センターに運ばれて行きました。

今思えば、世界一幸福な女だなあと考えている次第です。

院長先生はじめ高輪台の先生、皆さんのおかげで、新しい道が開けました。

これからも命あるかぎり、子供の為にも彼の為にも一生懸命に生きていきたいと思ひます。



東難連ニュース

東難連では、今年度の主な事業活動として、無料巡回検診（医療相談）を実施して参りますが、この事業は、東京都からの委託事業として行われているもので「潜在患者または日頃専門医の診療の機会にとけしい在宅患者」を対象としております。

現在まで、すでに、腎臓病、膠原病、肝臓病、リウマチ、神経系難病（二回）などを対象に六回（来年三月に、あと二回実施予定）実施しました。

六回分を簡単にまとめますと、受診者二四九人（男性一七七人、女性一五二人）で、地域別の内訳は、区部一四五人、市町村部一四六六、隣接部一七一人（埼玉県一五五人、神奈川県一四二人、栃木県一一人、静岡県一一人）となっております。

東難連の運動の成果として、全国にさ

きがけて昨年十月一日から「付添看護料の差額補助」が医療費公費負担の対象疾病患者を対象に実施されておりますが、去る、六月十八・十九日、上野のホテル江戸川で開催された「地域難病連絡会第五回全国交流会」（東難連が主催し、北海道、秋田、福島、愛知、岐阜、京都、大阪、兵庫から地域難病連代表が参加）では地方財政危機が呼ばれている中であるだけに、この成果を高く評価しました。

年度末 衛生局、民生局 53都予 都議会各党へ陳情

本年度は、六月二十七日に、「昭和53年度都予算案に関する要望書」、要望事項①難病の原因究明と治療研究を促進して下さい。②各都立総合病院に専門医を適正配慮し、難病医療の窓口を拡充して下さい。③都立大久保、大塚の両病院

改善の際には、特定内臓疾患者および、膠原病患者のための治療・リハビリ施設を併設して下さい。④差額ベッド料の軽減、解消のための措置をして下さい。⑤医療手当てまたは難病手当を支給して下さい。

⑥通院交通費の一部を助成して下さい。⑦心身障害者福祉手当を増額し、対象者を拡大して下さい。⑧訪問診療、訪問看護費を増員し、訪問医療、訪問看護制度を確立、推進して下さい。⑨医療費公費負担の対象疾病を拡大して下さい。⑩委託事業費を大幅に増額して下さい。⑪委託事業費を大幅に増額して下さい。⑫提出しました。

そして、七月十日の衛生局、民生局各担当者と東難連加盟団体役員（九団体、十六名が参加）との話し合いがもたれたのを皮切りに、難病患者、家族の切実な要求実現のために、役員代表による陳情運動が行われております。

都議会各党にも陳情

さらに、十月五日、美濃部都知事宛に、「昭和53年度東京都予算案に関する要望書」を提出し、十月十七日には、都議会

各党（自由民主党、公明党、社会党、共産党、新自由クラブ、民社党）に対して「昭和53年度東京都予算案要求に関する要望書」を提出しました。

そして、十月十九日には、社会党都議団（棚橋政調会長、鈴木副政調会長が出席）に、東難連加盟団体役員（五団体、九名）代表が陳情、十一月二日には、都議会自由民主党（奥山副幹事長、新井副政調会長小倉政副調会長、他関係議員七名同席）に東難連役員代表（平沢会長、村田副会長）が陳情しました。また、十一月十二日には、共産党都議団（栗原副幹事長、田中議員、飯田議員）に、東難連加盟団体役員（五団体、八名）が陳情し、二時間にわたって懇談しました。

都財政危機が叫ばれて三年になり、その改善の見通しも立たない現状では、来年度予算の査定は厳しいものが予想されますが、こうした私たちの運動は、役員だけでは到底大きな成果は期待できません。会員皆様のご協力、ご支援をお願いします。

全国患者・家族集會を

みんなの力で成功させよう

来る四月二日（日）、東京都勤労福祉会館ホール（中央区八丁堀）に四十五団体五百名を集めて「ゆたかな医療と福祉をめざす—全国患者・家族集會」が開催されます。

この集會を開く目的と意義は、①すべての患者や家族が遭遇している今日の情勢のきびしさを強調し、患者・家族の苦しい実態をうきざりにする。②医療と社会保障の拡充を政府などに要求する。③単なる患者運動でなく、国民運動とする。④この運動を成功させ、一人で悩んでいる患者と家族に大きな激励をおくる等でありすが、すでに実行委員会は、総額三百七十三千円の予算案を決定し、四十五団体がいっせいに団体支持署名、募金に取組んでいます。

今回の国会請願署名の趣旨・請願項目は、来春の国会で採択して貰うために、野党議員や自民党議員にも了解を得た内容となっておりますので、国民みなさんから支持いただけるものと思います。

▲署名募金の取り組み（東難連）について▼

- 一、署名用紙は、構成会員一人当たり、一枚（10名分）宛配付する—全体で百万人署名
- 二、募金目標（45団体で70万円、うち30%の20万円を実行委員会に納入—予算案）は、決めないが、各会が集めた募金総額の60%は、各会の活動資金として、各会に留保する。

従って、四十%を東難連へ納入する。

- 三、集約（ア切）は、決めませんでした。が、来年三月四日の第十回定例運営委員会に署名簿を持参する。

国民健康保険高額療養費 資金の貸付制度について

高額療養費は、国民健康保険の被保険者が同じ月に、同じ医療機関に支払った医療費の一部負担金の額が3万9000円を超えた場合（差額ベッド料金、歯科の自由診療分などは除く）その超えた額についてあとで支払われるものです。

しかし、現在、受診してから高額療養費が支払われるまでに3〜4月かかっており、入院などの場合一時多額の費用を必要としますので、そのつなぎ資金としてその貸付制度が実施されており、（対象）次の3つの条件に該当する方に限られているようです。」

- (1) 国民健康保険の被保険者であること
- (2) 高額療養費の支給を受ける見込みがあること

(3) その療養の費用の支払いが一時的に困難であること

〔返済方法〕

高額療養費が支給されるときに清算されます。（無利子）

◇詳細は貸付限度額や申込方法などについて、お住いの区市町村の国民健康保険課または担当係の方におたずねください。ただし、実施していない区市町村もありますので念のため。

新聞の切りぬきから

23区の国保料
平均28・8%の値上げ

都議会厚生文教委員会は十七日米年四月から二十三特別区の国民健康保険料を

一人平均二八・八%値上げする「特別区国民健康保険事業調整案例」の改正案を付帯決議案をつけて全会一致で可決した。

この改正案は、五十一年度からの均等割年額二千四百円を四千八百円に、所得割りの限度額十二万円を十七万円にそれぞれ引き上げ、値上げにともなう給付改善として、助産費支給額を四万円から六

万円に、葬祭費一万円を二万円に増額するもの。一人当たりの保険料は一万六千四百四十円となり、二八・八%の値上げ率となる。

国民健康保険は低所得者層に加入者が多く、本会議の一般質問でも各党から減免措置を配慮せよ、との意見が出されていた。このため、付帯決議案では「低所得者層に対する保険料の減免制度について配慮するとともに、その周知徹底をはかること」との、一項目が入れられた。

また、国保事業の健全運営のため、そのあり方の再検討を重ね、長期的展望で事業の適正化につとめる。付加給付については財政の許す限り早期に改善をはかるよう努力する。などが要望されている。

（朝日新聞、52年12月18日）



事務局からの
お知らせ

よろしく

お願いします

△個人会員入会者V(52・9/12月まで)

52・9月

松林 殿・久松 義武

52・10月

相原 良美・佐藤 ユリ・菅井 秋栄
菅原 和夫・武藤 忠雄・宮下 勝文

52・11月

小林 正雄・安藤 岩雄

52・12月

円田 貴史・山本 紀子

矢口 祐一

△患者会入会V

52・10月

島田 総合病院 ならべの会

会員数 六名

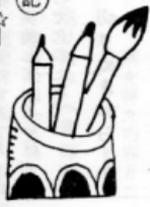
昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO通巻第二〇四号(毎週)月曜日・金曜日発行
昭和五十三年一月十六日発行

「ちよつと」
覚えておいて下さい

本誌に毎号広告を載せている株式会社日盛は、東腎協会員が食品を購入する際に「東腎協の会員」旨言つて下さいとのこと。直接会員へのメリットはないが、売上げの何%かを東腎協が催す食事講習会等に援助することを申し入れていまして、会員の方は日盛に行かれた時、言つて下さい。

なお、郵送でも受つけるが、第一回目には必ず会社まで訪問してほしいのとです。

☆ ☆
編 集
後 記
☆ ☆



健康、国鉄など今年も公共料金の大幅な値上げが予想されます。年が明けても、あめでと、と素直にいえる年ではないのではと、新年早々心配しています。それはともかく、気楽に友だちに手紙を書くつもりで原稿送つてね。(加藤)

* 食事療法を必要とするあなたへ.....

治療食品専門店がオープンしました!



- 治療法の指導をいたします。
医師の半義指し票をお持ちください。
経験豊富な管理栄養士がご相談にのり適切な治療法の指導をいたします。
- 治療食品・健康食品の販売もいたします。

◎ 株式会社 日 盛
東京都千代田区飯田橋3-11-5 / 20山京ビル101
☎(03)262-8861(代)

発行所
東 身
世 害者団体定期刊行物協会の
田 谷 区 砦 八 二 一 三 領 価 百 円